Stratacom Preprocessor
バージョン 2.1

リリースノート

Stratacom Preprocessor リリースノート、バージョン 2.1

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。
All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.
All rights are reserved.No part of this material may copied, reproduced, or translated to another language without the prior written consent of Hewlett-Packard Company.The information contained in this material is subject to change without notice.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.227-7013 for DOD agencies, and subparagraphs (c)(1) and (c)(2) of the Commercial Computer Software Restricted Rights clause at FAR 52.227-19 for other agencies.

HEWLETT-PACKARD COMPANY
United States of America

Copyright Notices.
© Copyright 2001 Hewlett-Packard Company, all rights reserved.
Reproduction, adaptation, or translation of this material without prior written permission is prohibited, except as allowed under the copyright laws of the United States.

商標
Microsoft®、Windows®、MS Windows®、および Windows NT®は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承認されています。

目次

範囲 4
関連ドキュメント 4
パッケージの概要 5
使用上の注意 5
パッケージの履歴 5
このリリースでの機能強化 6
機能強化 6
バグ修正 6
既知の問題 7
インストールと設定 8
依存関係 8
パッケージ構造 8
インストール 9
インストール後 9
Collection Manager の設定 10
統計の設定と有効化 10
テクニカルサポート 12

範囲

このリリースノートでは Stratacom Preprocessor バージョン 2.1 のインストール手順について説明しています。インストール手順では、前提条件、依存関係、およびインストール後の手順について説明しています。

また、最新の機能強化と既知の問題についても説明していますが、下記に示した『Stratacom Preprocessor and Stratacom Datapipes ユーザーガイド』の内容とは重複していません。

関連ドキュメント

1) 『ATM ReportPack ユーザーガイド』
2) 『ATM ReportPack リリースノート』
3) 『Frame Relay Service ReportPack ユーザーガイド』
4) 『Frame Relay Service ReportPack リリースノート』
5) 『Stratacom Preprocessor and Stratacom Datapipes ユーザーガイド』
6) 『Stratacom ATM DataPipe リリースノート』
7) 『Stratacom Frame Relay DataPipe リリースノート』
8) 『Statistics Collection Manager User Guide』(Cisco Systems)

パッケージの概要

Stratacom Preprocessor は TREND 用のスタンドアロンコンポーネントで、Stratacom デバイスにより Cisco 専用の一括統計形式で生成されるファイルの内容を解釈します。Stratacom Preprocessor はこれらのファイルを入力として受け取り、自身の設定ファイルによって定義された形式で ASCII CSV ファイルに書き込みます。Stratacom Preprocessor は Perl で記述されています。

使用上の注意

1. 依存関係はありません。Stratacom Preprocessor はどの特定バージョンの TREND パフォーマンスマネージャにも依存していません。

2. Stratacom Preprocessor は、8.x や 9.1 を含む Stratacom の各種バージョンとの幅広いテストが行われており、IPX、IGX、BPX、および MGX スイッチなど、一括統計ファイルを出力する任意のクラスの Stratacom デバイスをサポートしています。これらのファイルがサポートしている、Frame Relay、ATM、Fast Packet、Sonet などのトラフィックタイプがすべてサポートされています。

3. Stratacom Preprocessor は、一括統計ファイルを収集することはなく、それらを解釈するだけです。これらのファイルを収集して完全な形式で提供する部分は、外部のメカニズムに依存しています。ほとんどの場合、この外部のメカニズムとなるのは Cisco の Statistics Collection Manager です。Statistics Collection Manager は Strataview Plus/Cisco WAN Manager Application のコンポーネントです。

4. Stratacom Preprocessor を使用して、標準の DataPipe (Stratacom Frame Relay Datapipe など)やカスタム作成の DataPipe のための入力データを提供できます。

パッケージの履歴

バージョン	変更の簡単な概要
1.0	初回リリース
1.1	社内リリース
1.2	バグ修正(後述の説明を参照)
1.3	設定ファイルを追加。コマンド行オプションを追加。アンパックのみのオプションを追加
2.0	TREND 4.5 用の初回リリース
2.1	Axis シェルフ(MGX スイッチ)のサポートを強化

このリリースでの機能強化

機能強化

適用不可。

バグ修正

バージョン番号	バグ番号	説明
1.2	1651	IPX データ接続のキー情報が正しくない。関数の戻り値が正しくないため、余分なループ処理(無限ループにはならない)が発生する。
1.3	NA	設定データをコードから削除し、2 つの追加の設定ファイル(stratacom.keys と stratacom.releases)を作成。
1.3	NA	(ノード名が複数のネットワークにわたって一意でない場合)table_key として出力するときに、ネットワーク識別子をノード名に付加するコマンド行オプションを追加。
1.3	NA	アンパックのみのコマンド行オプションを追加。出力は STDOUT に書き込まれ、ファイルシステムには書き込まれない。

既知の問題

既知の問題はありません。

インストールと設定

パッケージマネージャを使用して Stratacom Preprocessor をインストールします。

依存関係

必要に応じて、Stratacom Preprocessor をインストールするときにレポートパックとデータパイプを同時にインストールすることもできます。これらのパッケージを別々にインストールする場合は、先に Stratacom Preprocessor をインストールした後に、ATM ReportPack と Stratacom ATM DataPipe をインストールしてください。

パッケージ構造

詳細については、『Stratacom Preprocessor and Stratacom Datapipes ユーザーガイド』を参照してください。パッケージには設定ファイルのサンプルが含まれています。このファイルは参考用として、パッケージディレクトリに常駐します。Stratacom ATM DataPipe または Stratacom Frame Relay DataPipe が必要とするファイルはすべて、これらのパッケージで配布されます。

プリプロセッサの正常な処理を行うためには次のディレクトリが必要になります。これらのディレクトリを作成または識別してください。

ARCHIVE	一括統計ファイルが処理後にここに移動します。
CONFIG	プリプロセッサ用の設定ファイルがここに格納されます。
DEST	出力ファイルがここに書き込まれます。
LOG	ログファイルです(DPIPE_HOME/temp/trend.log となる場合もあります)
SOURCE	入力用の一括統計ファイルがここに置かれます。
WORK	作業ファイル用の一時ディレクトリです。スプールの問題を避けるため、DEST ディレクトリと同じファイルシステム上に置いてください。

これらのディレクトリのデフォルト値は次のとおりです。

- Save
- Config
- Out
- In
- Work

これらのディレクトリは、環境変数 STRATACOM により識別されるディレクトリの配下のサブディレクトリとみなされます。デフォルトのログファイルは DPIPE_HOME/tmp/trend.log です。この環境変数はデフォルトを提供するだけであり、必ずしも使用する必要はありません。環境変数を使用しない場合は、StratacomPreprocessor.pro ファイルを編集してください。詳細は、後述の説明を参照してください。

インストール

詳細については、『Stratacom Preprocessor and Stratacom Datapipes ユーザーガイド』を参照してください。

インストール後

必要に応じて、インストール前に識別したディレクトリとファイルの場所(上記を参照)が反映されるように、.pro ファイルを変更してください。STRATACOM 環境変数を使用しない場合は、このファイルを編集して環境変数への参照を削除してください。

インストールが正常に行われていることをテストするには、DPIPE_HOME ディレクトリでコマンドプロンプトから次を実行します。

perl scripts/stratacom_preprocessor.pl –h

ヘルプ画面が表示されます。

次の手順に従い、.pro ファイルがスクリプトを正常に呼び出すことを確認します。

1. ソースディレクトリにファイルが入っていないことを確認します。
2. DPIPE_HOME ディレクトリでコマンドプロンプトから次を実行します。

   trend_proc –f scripts/StratacomPreprocessor.pro

.pro ファイルがスクリプトを正常に呼び出している場合は、プロセスの開始時間と終了時間を示すエントリがログファイルに書き込まれます。

Stratacom Preprocessor パッケージに付属の統計設定ファイルのサンプルは、自動的にはインストールされません。これらのファイルは、標準の DataPipe を使用する場合でも、カスタムの DataPipe を使用する場合でも、インストールする必要があります。標準の DataPipe を使用する場合は、適切なファイルが DataPipe によって供給されます。カスタムの DataPipe を使用する場合は、ユーザ自身で DataPipe を正しく設定する必要があります。設定ファイルは、プリプロセッサによって書き込まれたデータをインポートするために使用する TEEL ファイルと適合するようにしてください。

レポートを実行する前に、プロパティ情報をインポートする必要があります。この手順については、Frame Relay Service ReportPack および ATM Switch ReportPack で説明しています。

パッケージには 2 つの追加の設定ファイルが付属しています。

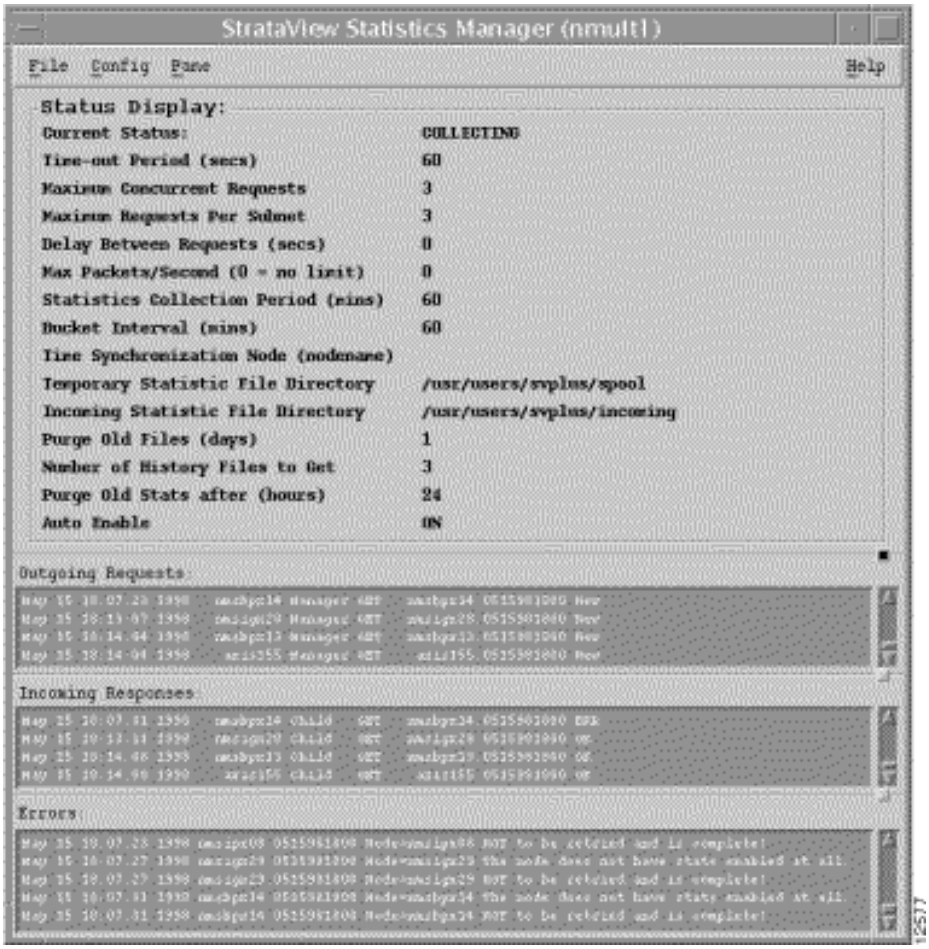
- stratacom.releases
- stratacom.keys

新しいリリースやオブジェクト/サブオブジェクトが登場した場合には、これらのファイルが修正される可能性があります。詳細については、パッケージにあるこれらのファイルを参照してください。

Collection Manager の設定

詳細については、Cisco のマニュアルを参照してください。
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cwm/9_2_00/ops/stat_mgr.htm に記載されている情報は正確だと思われます。

Statistics Collection Manager を起動すると、次の図のような画面が表示されます。

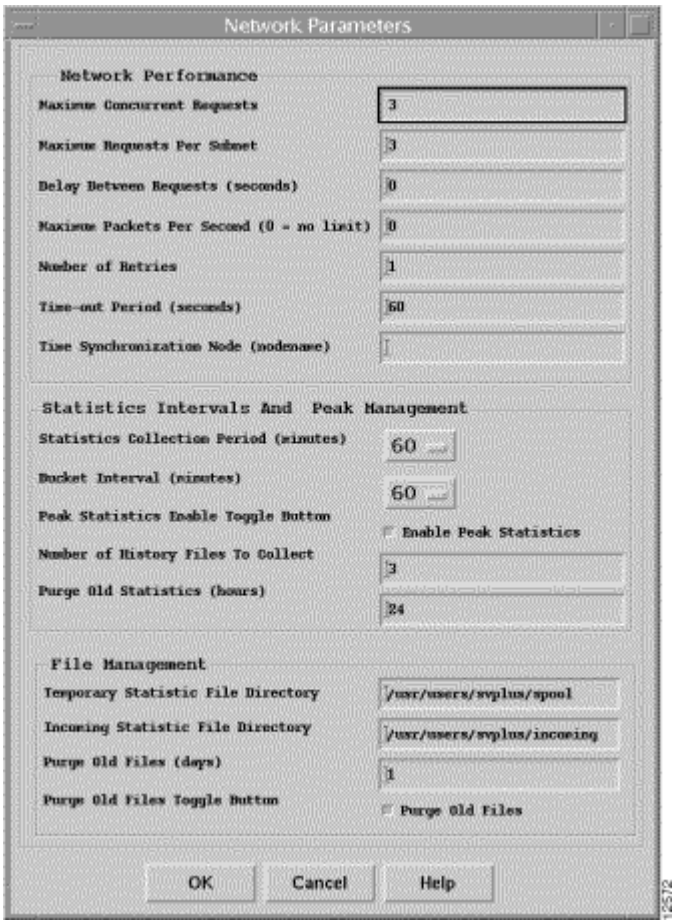


統計の設定と有効化

統計は、[**Config**]タブの[**Stats Enable Menu**]オプションを使用して有効にします。HP OpenView で提供されている DataPipe のサポートを目的として Stratacom Preprocessor を使用する場合は、どの統計値が必要なのかについての詳細情報が DataPipe に付属しています。Stratacom Preprocessor でカスタムの DataPipe をサポートする場合は、設定ファイルの例を参考にしてカスタムの設定ファイルを作成してください。

収集パラメータの設定

[**Config**]タブの[**Network Parameters**]オプションを使用して、各種のパラメータを変更できます。[**Network Parameters**]オプションを選択すると、次の図のような画面が表示されます。



統計ファイルは[**Incoming Statistics File Directory**]ボックスで識別されるディレクトリに収集されます。ここに、使用可能な完全なファイルがあります。ただし、SV+/CWM システムもこれらのファイルを解釈するように設定されている場合(通常はそのようになっています)、これらのファイルが処理後に **save** という名前のディレクトリに移動されます。

save ディレクトリは[**Temporary Statistics File Directory**]ボックスで識別されるディレクトリに作成されます。この場合は、このディレクトリを代わりに使用してください(上記の例ではディレクトリ /usr/users/svplus/spool/save が使用されます)。[**Purge Old Files**]トグルボタンはオンにしないでください。このボタンをオンにすると、ファイルは処理後に移動されず、自動的に破棄されます。

テクニカルサポート

HP OpenView TREND Performance Manager

19191 South Vermont Avenue

Ninth Floor

Torrance, CA 90502

電話: (310) 630-1010

電子メール: support@trinagy.com